

## ～北陸新幹線開業～

# 加賀百万石の城下町「金沢」の 道路管理について

北陸地方整備局 金沢河川国道事務所 道路管理第一課

## 1. はじめに

金沢河川国道事務所では、石川县域の国道8号、157号、159号、160号及び470号の5路線、約201kmに渡る指定区間を加賀国道維持、能登国道維持、金沢国道維持の3出張所で管理しています。

事務所の所在する石川県は、全域が豪雪地帯に指定されており、年間降水量及び降水日数が全国上位に位置しているものの、兼六園や武家屋敷等に代表される歴史的文化遺産や片山津、山代、山中、粟津、和倉等の温泉地区のほか、能登地域に見られる美しい海岸には世界農業遺産「能登の里山里海」の千枚田など、多くの観光資源に恵まれていることから、これまでも多くの観光客が訪れ、大いに賑わっています。

また、経済や産業の面でも、日本列島の中央部に位置することから、3つの都市圏（東京圏・名古屋圏・大阪圏）のそれぞれから影響を受けつつも、「加賀百万石」と言われた時代から引き継がれてきている金箔（金箔）、輪島塗（漆器）や九谷焼（磁器）などの伝統工芸、宝生流の能楽を取り入れた加賀宝生や華やかな金沢芸妓などの伝統芸能のほか、加賀料理に代表される食文化などといった伝統文化を大切に守りながら、持続的な発展を今もなお続けています。

今年3月（平成27年3月14日）には、地域の人々が待ち望んだ北陸新幹線が開業し、金沢駅は乗降客や見物客等で大変な人出となりました。

その後も入り込み客数は順調に伸びており、兼六園、長町武家屋敷、金沢21世紀美術館や近江町市場など、多くの見所を備えた金沢市内は、北陸新幹線開業前に比べ、連日の賑わいを見せています。

本稿では、北陸新幹線開業に伴い、さらに多くの観光客が訪れるようになった金沢の街における道路管理について、金沢市内の見所が集積する地区に隣接、あるいは近接する国道157号及び159号を中心に紹介します。



金沢河川国道管内図及び金沢市内主要幹線国道

## 2. 北陸新幹線開業まで

### (1) 特殊車両の通行許可について

北陸新幹線開業の約一年前、新型車両（W7系）は、日本海側の動脈である国道8号を走行して、北陸新幹線の車両基地（白山総合車両所）のある白山市に輸送されました。某企業のCMでご覧になった方もいらっしゃるかもしれませんが、金沢港に運ばれ、大型トレーラーに積載された新幹線は、車両制限令に定められた制限値（幅2.5m、長さ12m、高さ3.8m、総重量20t）を越えるほか、交差点での右左折や他の車両の通行にも大きな影響を与えることから、交通量や道路構造物等に注意し、安全かつ円滑な輸送が行えるように道路管理者をはじめ、関係者間で十分な打合せが行われました。

実際の輸送は、平成26年4月12日（土）未明に行ったものを皮切りに、金沢港から白山総合車両所間の約16km（うち国道8号の区間は約12km）の区間を7ヶ月間かけて120回（W7系10編成120両）に亘り行われましたが、混乱や事故なども無く無事に終えることができました。また、深夜の時間帯にも関わらず鉄道ファンをはじめ、沿道に多くの方が集まり開業に向けた気運の高まりを垣間見ました。



車両輸送状況（一般国道8号 平成26年4月12日 午前2時頃）

### (2) 無電柱化の取り組みについて

金沢市内では、昭和61年の第1期電線類地中化計画より、武家屋敷跡界隈の歴史的景観地区などから地中化が行われてきました。清流「おとこ川 犀川」の近くにある西の茶屋街や「おんな川 浅野川」の近くの東山・主計町かづえまちの東の茶屋街を対象に、伝統的建造物が建ち並ぶ金沢らしいまちなみの特徴を活かし、さまざまな整備手法を取り入れた金沢独自の無電柱化（※金沢方式）を実施し、地域の皆様のご理解・ご協力を得ながら現在の魅力ある空間を提供してきました。

※各路線ごとに住民参画の無電柱化事業計画を策定することによって、無電柱化の支障となる課題を解決していくアプローチのことを指し、コスト縮減の観点のもと、完全地中化にこだわらず地域の実情を考慮した無電柱化方式。



東山 ひがし茶屋街（写真提供：金沢市）

また、市内中心部の幹線道路である国道 157 号及び 159 号は、「文化的景観創出ゾーン」や「まちなか賑わい創出ゾーン」として無電柱化の重点整備エリアとして事業を行ってきました。

兼六園・香林坊・片町等、主な地区の整備は平成 26 年度までに完了しましたが、重点整備エリア内の直轄国道のうち、未整備となっている国道 159 号博労町<sup>ばくろまち</sup>～武蔵交差点間の電線共同溝整備事業を今後、推進していきます。



無電柱化が完了した国道 157 号香林坊地区

### (3) 観光地界隈の整備について

金沢市を紹介するうえで必ず挙げられる観光地のひとつに、国道 157 号の起点である武蔵交差点に隣接する金沢市民の台所「近江町市場」があります。

ここでは、武蔵ヶ辻第四地区再開発事業による公共管理者負担金を利用して国道の拡幅事業を実施しました。以前からある武蔵ヶ辻地下道も合わせてリニューアルし、同市場の持つ伝統的な雰囲気を持続しつつ、集客面並びに防災面での機能向上を図り「たまり」の機能を持った地区となっています。



武蔵交差点と近江町市場



近江町市場前

金沢駅（兼六園口）から武蔵交差点、香林坊を経て、最近の人気スポット「金沢 21 世紀美術館」へのメインルートとなる国道 157 号は、香林坊拡幅事業を実施したことで空間的な余裕が生まれ、近隣の尾山神社や長町武家屋敷等の観光地の界隈として、観光客や市民の格好の散策コースとなっています。



金沢 21 世紀美術館



尾山神社



長町武家屋敷

(写真提供：金沢市)

また、北陸有数の繁華街である片町地区では、昭和 30 年～ 40 年代に建築されたビルの老朽化が進み、集客性や話題性などの点で地区活性化の足かせとなっていました。片町 A 地区市街地再開発事業により、今般「片町きらら」として平成 28 年 3 月にオープン（プレオープンは平成 27 年 9 月 18 日）する運びとなりました。

この再開発ビルの前面には、一日約 750 台のバス（路線・周遊・高速）が停車する片町バス停留所があることから、道路管理者としても通行の安全性等を勘案し、バス駐車帯の整備を再開発事業と合わせて実施しています。



片町きららイメージパース（写真提供：金沢市）

### 3. 開業後も続く「おもてなし」の取り組み



もてなしドームと鼓門（写真提供：金沢市）

雨や雪の多い金沢で、「駅を降りた人に傘を差し出す、もてなしの心」を表現した「もてなしドーム」。

金沢の玄関口である金沢駅の東広場には、訪れる人に差し出す雨傘をイメージし、おもてなしの心を表わしたガラスのドームがあります。

「おもてなし」は、金沢を訪れる人たちを温かく迎えるためのちょっとした心配りです。

#### (1) ボランティア・サポート・プログラム（VSP）の活動

国道 157 号の武蔵交差点から片町・犀川大橋（1.6 km）間では、ボランティア・サポート・プログラム協定（VSP）に基づき、ボランティア団体が花の植え替えを年 3 回（春・夏・秋）行い、華やかな道づくりに取り組んでいます。

今年 3 月の春の植え替え時期には、北陸新幹線開業にあわせて新幹線をイメージさせる青色や黄色を中心とした配色の花植を行いました。

写真（3 月始め）では、まだ植え替えしたばかりの状態ですが、ゴールデンウィーク頃には、北陸新幹線 W7 系をイメージした青色と黄色のコントラストが美しい、華やかで潤いのある花壇となりました。

今後も季節を感じられるような歩道空間を、ボランティア団体の方々と協力して提供していきたいと思ひます。



VSP 活動状況（花植え 平成 27 年 3 月 4 日）

## (2) 道路パトロールの実施

北陸新幹線開業に伴い多くの方々が石川県を訪れ、兼六園や武家屋敷等の歴史的文化遺産が存在する金沢市内を散策されることが予想されることから、道路を安全にかつ、快適に利用して頂けるように、例年、8月の「道路ふれあい月間」に実施している合同パトロール（道路管理者連絡会（国土交通省・石川県・金沢市・NEXCO 中日本）主催）を、今年は新幹線開業前にも実施しました。

このパトロールでは、歩道を中心に危険箇所の点検や不法占用物件の指導を行いました。

また、8月の合同パトロールでは、幹線道路だけでなく通勤・通学に利用される生活道路についても、道路の正しい利用と快適な道路環境の確保を目的に、点検や指導を実施しました。



合同パトロール 国道 157 号他（平成 27 年 8 月 25 日）

## (3) バナーフラッグ等の道路占用

金沢市は「みんなの絵で新幹線開業を盛り上げよう！」と金沢駅構内・バスロータリー・まちなかの歩道にバナーフラッグの設置を計画しました。

平成 26 年 7 月に金沢市の広報誌やホームページで「金沢市内で連れてってあげたい場所」と題してイラストの募集を行い、提案された観光地等をイラストにした様々なバナーフラッグを作成し沿道に設置しました。

国道 157 号の武蔵交差点から香林坊間では、これまでも「金沢百万石まつり」や「金沢ゆめ街道」の歩行者天国など、道路を活用した地域の活性化や都市における賑わい創出に資するイベントとして道路占用許可を行ってきた実績もあることから、今回のバナーフラッグについても同様に、道路占用許可を行ってきたところであり、今後も自治体等が実施する地域の活性化や賑わい創出のためのイベントについて、道路管理者として、弾力的に判断を行うなど支援・協力をしていきたいと思えます。



イラスト募集ポスター



バナーフラッグ設置状況



作成されたフラッグ（写真提供：金沢市）

## 4. 終わりに

北陸新幹線の開業により、外国人観光客の増加が見込まれることから、目的地へスムーズに移動ができる様に観光地や公共交通機関に係る案内標識を3か国語（英語・中国語・韓国語）で表示するなど、占用物件の案内標識について許可等を行っています。



3カ国語で表示



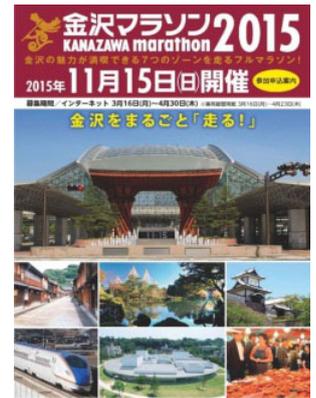
案内標識（占用物件）

今年は、北陸新幹線開業と合わせて、11月（平成27年11月15日）に第一回となる「金沢マラソン2015（主催：金沢マラソン組織委員会）」が開催されます。コースには、国が管理している159号の兼六園下や浅野川大橋のほか、国道157号の香林坊や犀川大橋など延長約4.6kmが含まれており、全面通行止及び片側通行止の規制が実施され、約12,000名（抽選倍率は約3倍）のランナーが市内を駆け抜けます。

また、金沢市では、浅野川筋4橋（浅野川大橋、天神橋、梅の橋、中の橋）を「金沢らしい夜間景観整備」としてライトアップする計画（平成28年度）をしております。

4橋のうちのひとつである浅野川大橋（国道159号）は、大正11年（1922年）に現在の永久橋として架け替えられた橋で、平成12年に登録有形文化財に指定され、白く美しいアーチは、金沢らしさを象徴する地域のシンボルとして多くの人に親しまれています。

浅野川のどことなく繊細で情緒ある水面の風情や伝統的建造物の集積地区であるひがし茶屋街や主計町茶屋街との相乗効果も大いに期待されるところです。



金沢マラソンパンフレット  
（提供：金沢市）



浅野川大橋（国道159号）（写真提供：金沢市）

これからの季節、国の特別名勝である兼六園は、紅葉と冬の風物詩である雪吊りで例年、大勢の観光客が訪れていることから、新幹線開業によるこれら地域の取り組みにより、更なる観光客の増加が期待されることです。これから新幹線開業後、初めての冬を迎えるため、首都圏等の雪に不慣れな地域からの観光客が雪の上や凍結した路面を歩いて転倒する恐れがあります。そのため、道路利用者への雪道利用に関する情報提供や効果的な道路除雪が今後の課題と言えます。

また、無電柱化の推進により金沢市内の伝統的建造物等がより魅力的な景観として形成されることと合わせて、都市防災機能の強化として、緊急輸送道路の確保など災害に強い、安全で快適な道路空間の確保が重要となることから、各道路管理者をはじめ各行政機関及び公益占用事業者等の民間企業と協力し、「おもてなし」の心で道路管理に取り組んで参ります。